

# 平成26年度 村上市図工部 活動報告

部長 星野 桐子（西神納小学校）

## 1 研究主題

創造することの楽しさを感じることができる指導の在り方

## 2 研究の概要

- (1) 学習指導要領の目標にある「つくり出す喜び」につながる、子どもの思いをかきたてる題材や子どもの「描きたい」という思いを膨らませる手立てについて研修を行う。
- (2) 部員自身による実技研修及び授業研修を通して、指導力向上を図ることを目指す。

## 3 研究の実際

### (1) 実技研修会【平成26年8月5日（火） 13:30～16:30 参加者17名】

東京学芸大学附属世田谷小学校 教頭 栗原 正治 先生から、「子どもがきらりと輝くとき」という演題でご講義をいただいた。中学年の題材を例に、子どもたちの想像の膨らませ方について学ぶことができた。

また、実技研修では、「絵の具で遊んで自分いろがみ」という題材を部員が体験することができた。「自分いろがみ」とは、色画用紙に、絵の具で色を自由に付けたものである。絵筆だけでなく、スポンジも使って部員が思い思いの「自分いろがみ」を作っていた。

その後、4～5人のグループを作り、出来上がった「自分いろがみ」を用いて共同制作を行った。「村上」というテーマのもと、「自分いろがみ」を用いてのコラージュ作品ができた。

部員全員が創作意欲を高め、楽しむことができた。図工授業のヒントを得ることができた。

### (2) 代表部員会 指導案検討【平成26年9月5日（金） 15:00～16:30 参加者7名】

### (3) 授業研修【平成26年9月26日（金） 13:55～16:30 参加者15名】

栗島浦村立栗島浦小学校 教頭 新野 智 先生（図工部員）を指導者とし、村上市立瀬波小学校 坂井 真美 先生が提案授業をした。3年生の絵画題材「ふしぎなりのもの」を用いて、子どもが想像を膨らませ、「描きたい」という思いをもつために、次の手立てを講じた。

- ① 教師が乗り物になりそうなものを例示し、それをもとに全体で対話をする。
- ② 自分たちが作った「ミニ自分くん人形」を使って、乗り物に見立てたものに乗って遊ぶ疑似体験をさせる。
- ③ 自分が乗り物にしたいものを校内に探しに行かせたり、持ち寄ったものを乗り物に見立てて子どもたち同士で交流させる。

協議会では、教師側の発問、子どもたちの姿から活発な意見交換がなされた。「導入時にいかに子どもたちの想像を膨らませるかが大切だと実感した。」「子どもたちに描きたいと思わせるために坂井先生が用意された、実物、道具、言葉が勉強になった。」などの意見が多く聞かれた。

一方、「全体での対話をもっとあるとよい。子どもたちのつぶやきを拾って、それを全体に広げるとよい。」という課題も見つかった。

指導者の新野先生からは、想像を膨らませるための手立てとして、豊富な図鑑、資料、実物を準備すること、子どもたちを空想の世界にいざなう教師の言葉かけが大切であること、絵を描く時の画面構成や彩色指導などについて例を示しながらご指導いただいた。

## 4 成果と課題

- (1) 子どもを指導する私たち自身の指導力向上を目指し、実技研修と授業研修の二本立てで研修を行った。参加者の多くから、参考になった、授業のヒントを得た、等の意見が寄せられた。
- (2) 来年度以降、部員全員が日々の実践を紹介し、様々な技を学ぶ機会を設けられるとよい。